



清涼飲料業界の「プラスチック資源循環」への取組み

2018年11月

一般社団法人 全国清涼飲料連合会

2017年 清涼飲料水 生産動向

品目別生産量割合 (2017年)

品目別生産量割合では、多くのカテゴリーを有する茶系飲料がトップとなりました。

その他

8.9%

野菜飲料	2.8%
乳性飲料(ストレート)	2.8%
豆乳類	1.6%
その他飲料	1.0%
乳性飲料(き釈用)	0.7%

スポーツ飲料等

6.6%

果実飲料等

7.8%

コーヒー飲料等

14.5%

総生産量
21,627千 kl



茶系飲料

29.5%

茶系飲料は以下の分類の合計

緑茶飲料	13.3%
紅茶飲料	4.8%
むぎ茶飲料	3.8%
ブレンド茶飲料	3.8%
ウーロン茶飲料	2.9%
その他茶系飲料	0.9%



炭酸飲料

17.8%



ミネラルウォーター類

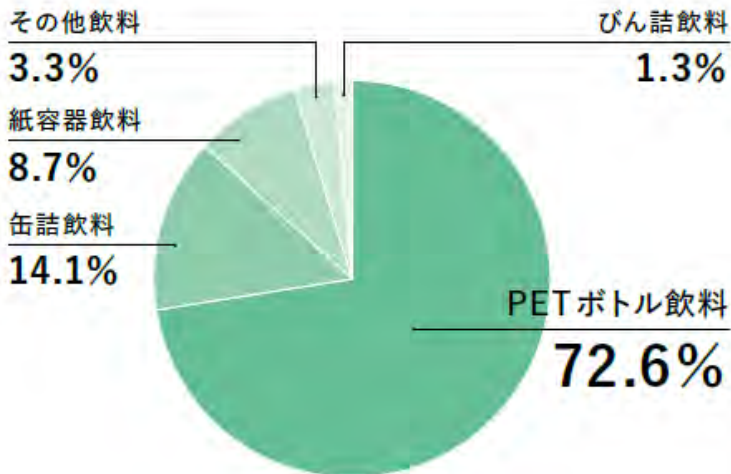
15.0%

品目別生産量推移 (1998年~2017年) は全清飲HPでご確認ください
<http://www.j-sda.or.jp/statistically-information/stati04.php>

2017年 清涼飲料水 生産動向

容器別生産量シェア (2017年)

2017年PETボトルのシェアは72.6%に達しました。



容器別生産量のシェア推移 (2014年～2017年)

容器区分	2014年	2015年	2016年	2017年
PETボトル飲料	69.5	70.9	72.0	72.6
缶詰飲料	17.0	16.0	15.2	14.1
紙容器飲料	8.9	8.5	8.4	8.7
その他飲料	3.2	3.1	3.2	3.3
びん詰飲料	1.5	1.4	1.3	1.3

PETボトルのシェアは増加を続け、2015年に70%を突破して以降もさらに高まっています。

**参考：2016年度のPETボトルの出荷本数は227億本
(PETボトルリサイクル推進協議会調べ)**

容器別生産量推移 (2008年～2017年) は全清飲HPでご確認ください
<http://www.j-sda.or.jp/statistically-information/stati06.php>

持続可能な社会形成目指した飲料業界の取組み



気候変動・エネルギー・資源

温室効果ガス排出量の
大幅削減

3Rを通じた資源循環

低炭素 社会

- ◆ 清涼飲料業界のCO2排出削減
…経団連自主行動計画の推進
…他業種での先進事例共有
- ◆ フロン排出抑制法への対応
- ◆ 自販機総消費電力量自主行動計画
- ◆ 省エネ法対応：自販機一台当たり消費電力量削減
- ◆ 国民運動「COOL CHOICE」に協力

持続可能 社会

循環型 社会

- ◆ 3R推進自主行動計画
…環境配慮設計、3R施策の徹底
…経団連自主行動計画
「循環型社会形成編」を継続実施
…PETボトル自主設計ガイドライン
…容器包装素材別8団体の活動に協力
…先進事例共有、会員企業支援
- ◆ リサイクル制度の健全な維持
…業界としての容り法、食り法への対応
- ◆ 効率的な生産・物流、廃棄物削減
…年月表示ガイドライン、気象情報活用

自然共生 社会

自然の恵みの享受と継承

- ◆ 散乱防止活動推進
…食品容器環境美化協会の運営に参画
- ◆ 景観法・景観条例対応：自販機自主ガイドライン制定・遵守
- ◆ 海洋ごみ、マイクロプラスチック等新たな課題への対応
- ◆ 森林吸収源・水源対策等会員各社の先進事例共有

環境面での業界活動活動の広報

- ◆ 全清飲HPを通じての業界環境活動の広報
- ◆ PETリサイクル推進協の広報活動推進
- ◆ 環境問題に取り組む市民団体との情報交換

1992年～ 指定PETボトル自主設計ガイドライン

清涼飲料（含乳飲料）、特定調味料（しょうゆ他）、酒類

* 資源有効利用促進法→指定表示製品[分別回収の促進]



キャップ ⇒ プラスチックキャップ
（PE/PP=比重1以下で水に浮く）
1998年 アルミキャップを禁止



ボトル本体 ⇒ PET単体／無色透明
1998年 ベースカップを原則禁止
2001年 着色ボトルを禁止
2015年 BtoB対応GL追加



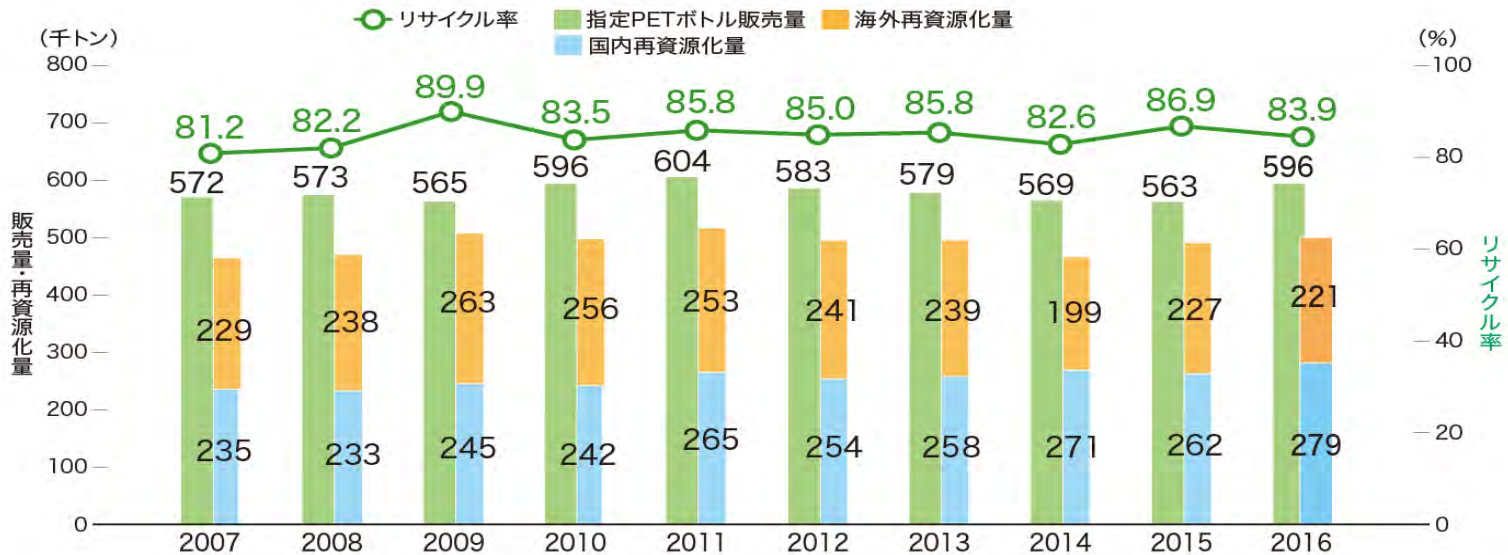
紙

ラベル ⇒ 手で簡単に剥がせること
1994年 PVCを禁止（再生材変色防止）
1994年 全面糊付け紙ラベルを禁止
1998年 アルミラミネートを禁止

PETボトルリデュース率・リサイクル率推移 (PETボトルリサイクル推進協議会)

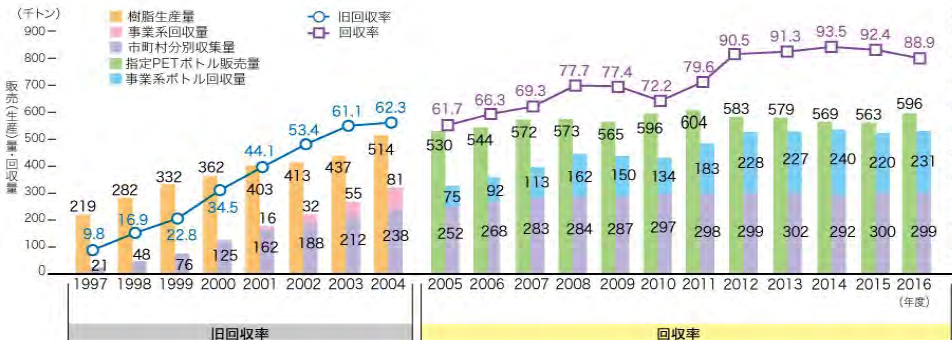
1. 2016年度リデュース率 23.0%(2020年度目標25%)

2. 2016年度リサイクル率 83.9%(目標85%以上維持)



<PETボトル国内回収率推移>

<日米欧PETボトルリサイクル率比較>



ライフサイクルの全ての段階で環境への配慮に努める！ 環境配慮設計事例

輸送



四隅の角をカットして軽量化と運びやすさを両立！鉄道輸送・船舶輸送も推進。



エコシッピングマーク

リターナブル



リターナブルびんを関東圏内飲食店に展開。省資源・省エネルギーを実現しながら、優れた密封性で中身のおいしさも保持！

容器軽量化



軽量ボトル（28.9g）でありながらユニバーサルデザインで「持ちやすさ」「注ぎやすさ」も実現！

すべてのユーザーに使いやすいデザイン

無菌充填システム導入で茶系飲料・水飲料のプラキャップを軽量化。



現行のキャップ エコスタイルキャップ

リサイクル適正

アルミレス紙パックの開発で長期常温保存と牛乳パック同様のリサイクルを可能に！



「たんでくれてありがとう」分別協力への感謝のメッセージ



「絞って」減容化！

プラ包装軽量化



ロールラベル（ミンシ目からはがすのではなく糊付けからはがす）を採用し、軽量化を実現。

再生可能原料



「プラントボトル」を使用した「いる・は・す」のボトル



食環協は飲料メーカー6団体が集まり、食品容器の散乱防止等を図り、伝統ある国土の環境美化等に努めることにより、公共の福祉の増進に資することを目的に設立、運営されております。

- ◆ 一般社団法人 全国清涼飲料連合会
- ◆ 一般社団法人 全国トマト工業会
- ◆ 一般社団法人 日本果汁協会
- ◆ コカ・コーラ協会
- ◆ 日本コーヒー飲料協会
- ◆ ビール酒造組合

● 食環協の事業

- (1) 環境美化に関する啓発普及及び助成
- (2) 環境美化に関する調査研究
- (3) 環境美化に関する資料及び情報収集、分析、提供
- (4) 環境美化に関する公共機関等との連携・協力
- (5) 環境美化に関する公共機関等への要請・建議等
- (6) その他協会の目的を達成するために必要な事業

● 具体的事業

- アダプト・プログラム助成事業
- アダプト・プログラム活動の情報収集
- イベントへ出展等
- 環境美化教育優良校の表彰
- 環境美化活動実践の紹介
- 環境学習ガイドの作成配布
- まち美化キッズの提供

散乱ごみ問題は、一社で解決困難でもあるため、飲料メーカー団体が集まり、「食品容器の散乱防止等を図り、伝統ある国土の環境美化等に努めることにより、公共の福祉の増進に資する」目的で、1973年に食品容器環境美化協議会を設立。

2011年4月に、公益社団法人への移行。会員である飲料業界が一体となって、取り巻く情勢を踏まえ、各般の散乱防止策を推進し、協会設立の目的達成に努めている。

- ・アダプト活動支援…2017年度までに累計約350の環境美化団体に助成
- ・環境美化教育優良等表彰事業…2017年度 最優秀校4校 優秀校6校 優良校27校を表彰

自然共生社会を目指した飲料事業者の取組み



清涼飲料水のおいしさ、楽しさに関する情報と当連合会の取組みをご紹介します

一般社団法人 全国清涼飲料連合会

全清飲

自販機

環境

製造

統計

容器包装3R推進

低炭素社会

循環型社会

自然との共生

もっと知りたい方へ

水資源保全 の取組み

水はあらゆる生命の源であり、私たちの生命・健康維持に欠かせません。そして、清涼飲料業界にとっても最も大切な原材料です。

清涼飲料業界では、この大切な水を守り続けるために、用水削減、水源涵養、水質保全などの水資源保全活動に取り組んでいます。

水資源を取り巻く環境

国内では現在、安定した水利用と良質な水資源の確保のために、限られた水資源を有効に利用する「総合的なマネジメント」が求められています。その最重要テーマは、「健全な水循環系の構築」です。具体的には、水質汚濁防止、節水、雨水の利用、下水再生水などの活用、人工的な水処理の充実というこれまでの「治水・利水・給水・排水」などの観点に加え、水源の涵養、地下水保全、土壌汚染の防止、緑の活用など、広い視野に立った取組みが求められます。今後は、安全で良質な水質を確保するとともに、水循環系に大きく影響を及ぼす河川環境・地域環境の保全、地下水の適正な利用、水源地域の森林の保全等にもさらに積極的に取り組んでいかなければなりません。

生物多様性

地球上には、生命誕生以来、たくさんの生物種が生まれ、そして様々に進化してきました。その生命の多様さ＝「生物多様性」は、自然の豊かさそのものであり、私たちは、そこからたくさんの恩恵を受け生活しています。しかし今、かつてないスピードで種の絶滅が進んでいます。清涼飲料業界では、生物多様性の恵みを次世代にも引き継いでいくために、希少生物の保護、野生生物種の生息地の保全等に取り組んでいます。



自然との共生

清涼飲料水業界は、清涼飲料水に欠かせない水資源をはじめ、幅広い視野に立った自然環境の保全活動に取り組んでいます。

- ▶ [水質資源保全の取組み](#)
- ▶ [水資源を取り巻く環境](#)
- ▶ [生物多様性・環境教育の取組み・食環協](#)
- ▶ [ポイ捨て・散乱防止の取組み](#)

自然共生社会を目指した飲料事業者の取組み

コカ・コーラが推進している「ウォーター・ニュートラルリティー」のロゴマーク



KIRIN × ランドネ
水をめぐる
森の教室



KIRIN キリンホールディングス



飲料業界の現状と課題



- PETボトルリデュース率：23.0% (2016年度)
(自主計画：2020年度25%「2004年度対比」)
- PETボトルリサイクル率：83.9% (2016年度)
(自主計画：リサイクル率85%以上の維持目標)
- 海外再資源化量：22.1万トン、国内再資源化量：27.9万トン (家庭で排出されるPETボトルの多くが容器包装リサイクル法に基づいて取引され、国内循環される一方で、自販機横の回収BOX等に捨てられる「事業系PET」は、これまで大半が中国に輸出)
- 自販機横の回収BOX設置率：約90%。一方、回収BOXではなくゴミ箱とみなされ、生活ごみを入れる事象もあることや、一部地域ではごみ持ち帰り政策のため設置できない状況。
- 河川・海岸ごみの代表例としてPETボトルを、環境NGO団体が指摘。

海洋プラ問題・飲料業界としての短・中・長期視点

検討例

短期

2019年春
G20開催
国内プラ資源
循環戦略策定
2020東京オリパラ

- ◆ 現状確認と情報共有、勉強会開催
- ◆ 短期で可能なリサイクル率向上への業界取組検討と実施
- ◆ 業界としての啓発活動と広報強化
- ◆ 環境NGO等ステークホルダーとの連携強化

中期

2025年
第四次循環型
社会基本計画
数値目標年次

- ◆ 廃掃法改正を含めた事業系廃棄物課題提案※
 - ◆ ポイ捨て防止条例強化に向けた活動※
 - ◆ 回収率、リサイクル率の向上、国内循環目指した取組み
 - ◆ PETボトルの二次マイクロプラ化の科学的根拠検討※
- ※提言や要請は、短期で実施

長期

2030年
EUプラスチック
戦略完全履行
SDGsゴール

- ◆ 使用済容器回収率向上と有効利用拡大に向けた業界の取組み
- ◆ 日本の回収・リサイクルシステムをベースとした諸外国展開への協力

プラ資源循環で飲料事業者が取り組める自主的行動

自主的行動	業界としての取組	個社としての取組
一層の 3R 推進と 研究 開発	リデュース	
	使用済容器 回収率改善 リサイクル徹底	
	生分解性 プラ利用 新素材開発	
国民 理解 促進	消費者啓発 環境美化活動	
国際 協力	途上国 サポート	

引き続きのご指導を 宜しくお願い致します。



一般社団法人 全国清涼飲料連合会